

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様には学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査結果を受けた取り組みについて

武雄市立（山内東）小学校

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現6年生	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	71.3	66.0	55.8	64.0
	(1.09)	(0.97)	(1.11)	(1.05)
R5 正答率の全国比	0.98		1.02	

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査の結果から】

・正答率をしてみると、国語は全国平均をやや下回っているものの、算数は、全国平均を上回っている。

【国語】

・特に成果が見られたのは、「思考・判断・表現力」における「話すこと・聞くこと」や「読むこと」では、全国平均をやや上回っている。その中でも、「資料から理解したことをもとに自分の考えをまとめる」問題によく取り組んでいた。

- ・課題は、「知識及び技能」における「情報の扱い方に関する事項」で、全国平均を下回っている。
- ・与えられた情報の中から、条件を満たして書くことに難がある。

【算数】

- ・「図形」の領域において、四角形とその特徴の理解が定着していなかった。
- ・根拠を明確にして式に表すことにつまずきが見られる。

【意識調査】

・全国と比べてポイントが高かった項目は、「読書は好きか」「今住んでいる地域の行事に参加しているか」「将来の夢や目標を持っているか」などであった。一方で、「家で自分で計画を立てて勉強しているか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」「自分にはよいところがあると思うか」などの項目が低い結果となった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【授業改善の取組】

- ・「授業づくりステップ1・2・3」のステップ3を目指した授業づくりの継続を図る。その中で、チェックシートを活用しながら指導の改善に生かしていく。
- ・自分の考えをノートやワークシートに書く機会を積極的に設けていく。その際、授業に出てくるキーワードや図、式など多様な表現方法を活用できるようにする。

【国語】

- ・日頃の授業の中で、自分の考えを書くときに「理由や根拠を入れて」などの条件を提示する。
- ・学習のまとめやふりかえりで、キーワードや書き出しを与える。

【算数】

- ・具体物を用いたり、視覚的情報を提示したりして学習内容の理解につながる授業実践を図る。
- ・低学年のときから、式につながる数やキーワードに線を引いたり○で囲んだりして題意をとらえることを大切にする。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【家庭学習の充実を図る】

- ・各学年で家庭学習の時間を設定したり学習内容の工夫を盛り込んだ課題などを準備したりする。
- ・「多読賞」や「読書マイスター」など明確な目標を掲げ、さらに読書活動の充実を図る。